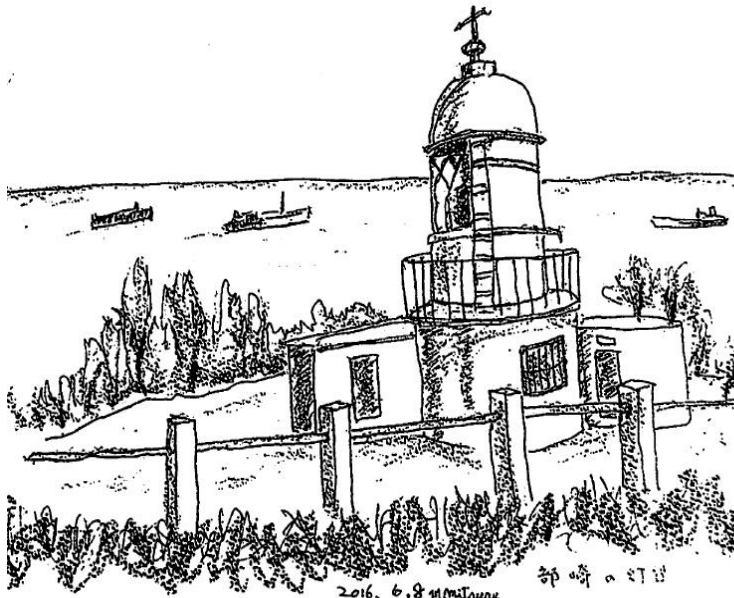


週報2020年8月23日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3 章 1 5 節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年8月23(日)

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山崎銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3 章 15 節」
讃美	新聖歌 382「心から願うのは」1・3・5 節
献身の祈り	山崎銀次郎 牧師
賛美	新聖歌 198「GOD BLESS YOU」1・2 節
聖書朗読	エペソ人への手紙 2 章 11～22 節
説教題	「神の恵みによって実現する平和」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山崎銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

**交わりの三省**

- \* 互いに愛し合っていますか
- \* 互いに赦し合っていますか
- \* 互いに祈りあっていますか

# 説教要約

エペソ 2 章 11～22 節

## I. 緒論

### 「神の恵みによって実現する平和」

パウロがエペソ書で繰り返し強調している事は神の恵みです。この書簡によると、以前のエペソの人達は不道德で、好色に身を委ねて、不潔な行いを繰り返していたようです。(エペソ 4:19) パウロはこのように神から離れていたエペソの兄弟達に「**あなた方は神の一方的な恵みによって救われ、今恵みの只中にいる**」という事を何度も強調しました。そしてその恵みの只中に、ユダヤ人も、異邦人も入れられている事を再び強調しました。パウロが今日の箇所で言いたかった事は**神の恵みによって一つにされた**、という事です。

この手紙を通じて、エペソのクリスチャン達が直面している問題が幾つか見えてきます。一つ目は、神の救いを知ったのにも関わらず将来に不安を抱え魔術に手を出す人達がいた。二つ目はユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンの対立です。同じ共同体の中で律法の遵守を巡って対立していたようです。そのような問題の中にいるエペソの人々にパウロが伝えたかった事は「**私達が知った救いの恵みを見失わないように**」というものでした。パウロが今日の箇所で言いたかった事を一言でまとめるなら「**神の恵みによって一つにされたのだから、神の恵みによってお互いに成長しなさい**」という事です。

つまりパウロはクリスチャンの人生は神の御手の内にあって、他の何も頼る必要が無い事。行いや人種で人の優劣が決まらず、神の恵みの中で一人一人が愛されている事。互いに尊重しあい、赦し愛し合う事。そしてそれらの事を信仰生活の中で学ぶ事が教会の成長(主に在る共同体の成熟)であることを教えています。そして**成熟した教会には必ず平和の実現が伴う事**を聖書は言っています。そして平和の実現のために欠かせないのが神の恵みです。この朝私達に語られている事はキリスト者として神の恵みを追い求め、平和の実現を追い求めているか、という事です。

## II. 本論(証し)

今日の証しは日曜学校のキャンプで体験した話です。6年生の時でした。キャンプに参加する前、私にはある悩みがありました。それは自分が神様を信じているか自信が無い、というものでした。私は当時、神様の存在を認めていたし、小学校3年生の時、神様を信じたら天国に行けると信じました。しかしそこから3年たって、自分が今神様を信じているかどうかわからなくなったのです。

そうした中で、キャンプファイヤーの時でした。私は正直に「自分は今神様を信じているか自信が無いのでわかるようにして下さい」とお祈りしました。しかし何の確信も無いまま時間が過ぎていったある時、自分の背中に暖かい手の温もりを感じました。教会学校の先生が手を置いて祈ってくれていたのです。「**銀ちゃんが神様の事をもっとよくわかるように**」そうして次々に先生達が同じお祈りしてくださいました。その先生方のお祈りを通じて「**神様は僕の事を愛してくれている**」という事がわかりました。そしてこのキャンプを通じてはっきりと神様を信じる事が出来ました。

私がこの当時の事を振り返って思う事は、あの時「自分は神様の何を信じているのか?」という疑問を抱いたのだと思います。そして神様からの答えは「**私の愛を信じなさい**」という答えをもらいました。そして神様はたくさんの日曜学校の先生を通じてその事を私に教えてくれたのでした。私はそのような体験をたくさんして、日曜学校の先生になる事を決心しました。おなじように神様の恵みを知ってほしいと思ったからです。

## III. 結論

私達が救われたのは何か人より秀でた部分が合ったからではありません。神様の一方的な恵みによってです。私達は人生の中でたくさんの紆余曲折を経験します。スムーズに物事が進まないと感じ、その中で、悩み苦しい思いをたくさん経験します。そしていつの間にか迷子の羊の様に神様から遠く離れた生活をしてしまいます。一つ言える事は紆余曲折が悪いではありません。私達の本当の問題は神の恵みを見失う事です。

「あなたは神の作品だ」「あなた方は恵みによって一つだ」「あなた方一人一人が教会で、一人一人救いの恵みによって結び合わされ、そして建て上げられて行くんだ」パウロはエペソの人達に信仰の道を歩み続ける事が出来るように繰り返し励ましています。エペソ 4 章 1 節はその思いが爆発している箇所です。私達の信仰は神の恵みによって育まれていくのです。何かを達成したからではありません。

私達は神の恵みによって一つとされました。人種の隔たり、文化の違いによる価値観の違いの隔たり、律法を授けられた民とそうでない者達の隔たりは十字架によって粉々に砕かれました。今私達を隔たる壁はありません。敵意を残してはいけないと聖書は言っています。私達の信仰生活は共同体の生活の中で愛と赦しと和解を学ぶ為にあります。そしてそれは神の恵みによって完成に近づいて行きます。共に主を見上げ前進してまいりましょう。